



4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	事業の実施に伴い、緑豊かな環境が保全管理されることで、総合計画の目標に結びつく事業である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	日々の要望においても街路樹管理等の要望が寄せられるため、適正な管理事業は町民のニーズに即した事業である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	道路管理と同じように、瑕疵問題等も生じてくるため行政主体で実施することが望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	統合や連携は難しい。低木の管理業務の一部を、シルバー人材センターに依頼するなど、すでにコストの削減を実施しており、更なる削減は難しい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	適正に街路樹の状況を判断したうえで、環境整備を進めている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	街路樹は町民全体の物であり、妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	本事業の実施については、緑豊かで良好な居住環境の創出・維持には欠かせないものであり、町民のニーズにも即した事業であるため、再検討の余地はないと考える。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	管理すべき街路樹については、継続・維持されるべきものであるため、存在する限り事業終了の可能性はないものとする。

### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	業務委託以外、職員による直営管理を実施することにより、他業務との兼合いの中でコスト削減が図れるものとする。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 既存の街路樹が植栽後の経年成長により巨木化し、樹間が密になり道路交通上、視認性が悪化したり、枯死してしまうなどの問題も発生しており、策定した「街路樹管理ガイドライン」に基づき適正な管理と再生を実施していく必要がある。
	2次評価	所属長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 街路樹管理ガイドラインに基づき、量の拡大から質の向上を目指し維持管理を行っていきたい。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	公園施設管理事務		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうらおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	都市計画の推進	(5) 主担当者区分	主査	
	施策	都市的環境の充実	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	都市公園法				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	公園緑化保全を目的とする、植栽管理業務委託・施設点検(池・トイレ他)の実施、及び公園の巡回実施		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	事業費	会計		予算科目		7 款	4 項	4 目	
		区分		単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)
		コスト総額		千円	59,266	44,540	39,429	41,904	41,904
事業費等		千円	54,530	39,698	34,644	37,119	37,119		
財源内訳		国支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円	959	395	327	342	342	
		一般財源	千円	53,571	39,303	34,317	36,777	36,777	
人件費		千円×人役	4,736	4,842	4,785	4,785	4,785		
正規職員		千円×人役	5,920 × 0.80	6,053 × 0.80	5,981 × 0.80	5,981 × 0.80	5,981 × 0.80		
正規職員時間外勤務		千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×		
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	定期的な巡回を行い、安全上の不備を早期に発見し解消していくことを目指す。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				業務委託数	件		17		16
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	概ね快適な公園の維持管理が出来た。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	事業の実施に伴い、全ての利用者の安全・安心、及び快適につながるものである。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	事業の実施に伴い、全ての利用者の安全・安心、及び快適につながるものであり、実際に管理業務に対する住民ニーズは高いと考える。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 A. 実施済み・できない	理由	公園管理上の瑕疵問題等も生じてくるものであり、行政主体で行うことが望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	統合や連携は難しく、コストの削減は難しい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	適正に公園の状況を判断した上で、公園管理・整備を実施している。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公園は町民全体のものであり、妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	公園管理上の瑕疵問題等も生じてくるものであり、行政主体で行うことが望ましく、事業の再検討の余地はないと考える。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	公園管理上の瑕疵問題等も生じてくるものであり、公園が閉鎖もしくは廃止にならない以上事業終了の可能性はないと考える。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	業務委託以外、職員による直営管理を実施することにより、他業務との兼合いの中でコスト削減が図れるものとする。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 公園の安全は不可欠であり、不備の早期発見・改善に必要な業務である。
		2次評価	所属長	評価 C. 事業継続
	3次評価		町長	評価

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	公園遊具管理事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうらおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	都市計画の推進	(5) 主担当者区分	主査	
	施策	都市的環境の充実	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	遊具の安全に関する基準				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	利用者が安全・安心かつ快適に過ごせる公園の施設維持管理業務(町内一円の公園) ①遊具点検業務委託の発注(毎年) ②異常発生時の修繕工事発注(点検後、異常の有無で即対応と併せ、 「野木町公園施設長寿命化計画」とも照し合せて修繕等の実施) ③異常・不具合の検知のため巡回		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	会計		予 算 科 目		7 款	4 項	4 目		
	区 分		単 位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)	
	事業費	コスト総額		千円	11,771	4,148	3,689	8,704	3,598
事業費等		千円	11,179	3,543	3,091	8,106	3,000		
財源内訳		国支出金	千円	1,500				2,553	
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	9,679	3,543	3,091	5,553	3,000	
人件費		千円×人役	592	605	598	598	598		
正規職員		千円×人役	5,920 × 0.10	6,053 × 0.10	5,981 × 0.10	5,981 × 0.10	5,981 × 0.10		
正規職員時間外勤務		千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×		
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
(1) 活動 指標	公園の巡回を行い、随時補修又は計画的な補修 工事を実施 (「野木町公園施設長寿命化計画」に基づき対応)	修繕工事	基		11			3	
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
(2) 成果 指標	公園の巡回を行い、遊具等による事故を未然に防 ぐ。	遊具等による事故	件	0	0	100.0	0	0	100.0

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	事業の実施に伴い、全ての利用者の安全・安心、及び快適につながるものである。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	事業の実施に伴い、全ての利用者の安全・安心、及び快適につながるものであり、遊具の修繕や、利用に関する要望も多く、住民ニーズは高いと考える。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 A. 実施済み・できない	理由	公園管理上の瑕疵問題等も生じてくるものであり、行政主体で行うことが望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	統合や連携は難しく、コストの削減は難しい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	施設の状況を適正に判断した上で、全ての利用者が快適に利用できるよう、公園遊具等の施設整備を実施している。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公園は町民全体のものであり、妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	公園施設が存続する以上は管理・修繕業務は必要であり、再検討の余地はないと考える。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	公園施設が存続する以上、管理・修繕業務は継続させるべきものであり、適正な管理が利用者全てが望むことである。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	子供たちを含む全ての利用者が、公園遊具等で安全・安心に遊ぶよう、適切な維持管理を図っていききたい。また、健康増進などの観点から、既設の健康遊具を適切に管理するとともに、多くの公園に設置できるよう適宜増設も検討していききたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 公園遊具は主に、子供たちが利用するものであり、安全管理は必要不可欠なものなので、不備、不具合の早期発見・改善は必要な業務である。また、健康増進の観点からも健康遊具の維持管理や更なる増設も必要と考える。
	2次評価	所属長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 安全確保の観点から遊具点検は、法律で毎年行うことが義務付されており、予算の範囲内で計画的に修繕していききたい。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	公園清掃管理委託事務(自治会等委託)		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	都市計画の推進	(5) 主担当者区分	主事	
	施策	都市的環境の充実	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	地方自治法・都市公園法				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	それぞれの地元地域で公園清掃・管理を担当する団体と連携を図り、継続して管理作業に協力してもらえらる団体には安価であるが委託料を支出し、作業を実施してもらっている。 (都市公園:15箇所) (その他の公園:32箇所)		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	事業費	会計		区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)
		予 算 科 目	7 款							
				コスト総額	千円	2,521	2,507	2,581	2,615	2,615
				事業費等	千円	1,337	1,296	1,385	1,419	1,419
	財源内訳			国支出金	千円					
				県支出金	千円					
				地方債	千円					
				その他	千円					
				一般財源	千円	1,337	1,296	1,385	1,419	1,419
				人件費	千円×人役	1,184	1,211	1,196	1,196	1,196
				正規職員	千円×人役	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20
				正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×
				その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
	都市公園・その他の公園について、地元地域の協力団体に清掃・除草等を委託する。	公園数	箇所	55	41	74.5	56	42	75.0
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
	適切な公園の維持管理ができた。地元地域の協力団体と良好な関係を築くことができ、清掃・除草等の経費を削減する。	協力団体	団体	35	31	88.6	35	32	91.4

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	既存の公園について、地域の方々に清掃活動等を実施していただくことで、過ごしやすい公園の維持ができる。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	公園利用のニーズは高まっており、地元地域の団体に清掃等を実施し良好な環境が維持されているため、受益者のニーズに即している。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 A. 実施済み・できない	理由	既に、地元地域の団体と協力して事業を実施している。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	既に、地元地域の団体と協力して事業を実施しているため、これ以上の連携等は難しい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	利用するすべての方が快適に過ごせるようにするための事業なので、公平性は保たれていると思われる。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公園は町民全体の物であり、妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	公園利用に対するニーズは高まっており、地元地域において清掃等を行っているので、再検討の余地はないと考える。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	公園施設が存続する以上、管理・修繕業務は継続させるべきものであり、適正な管理が利用者全てが望むことである。

5. 今後の課題・方向性

	主担当者	地元地域の団体の協力を得ることにより、その地域の方々が維持清掃活動に参加することや、それぞれの公園に愛着を持つことにつながっている。 今後も、協力団体と密に連携を図りながら、公園の景観・環境整備につなげていきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	公園管理の一部を地元地域に委託する事務で、今後も継続していく必要がある。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
C. 事業継続			地域の方が公園に愛着を持ち、管理活動にご協力いただいているものであるため、継続していきたい。	
3次評価	町長	評価	今後の方向性	

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	道路橋梁維持補修事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうらおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	主査	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	全ての利用者が、安全かつ快適に利用・通行できる道路、及び付属施設の維持管理業務(町内一円)		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	事業費	会計		予算科目		7 款	2 項	1 目	
		区分		単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)
		コスト総額		千円	58,398	38,055	43,757	70,052	104,876
事業費等		千円	47,742	27,160	32,991	59,286	94,110		
財源内訳		国支出金	千円	9,520		550	13,510	34,000	
		県支出金	千円						
		地方債	千円	7,000				2,000	
		その他	千円	5,034	5,093	5,658	5,769	5,800	
		一般財源	千円	26,188	22,067	26,783	38,007	54,310	
人件費		千円×人役	10,656	10,895	10,766	10,766	10,766		
正規職員		千円×人役	5,920 × 1.80	6,053 × 1.80	5,981 × 1.80	5,981 × 1.80	5,981 × 1.80		
正規職員時間外勤務		千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×		
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
	巡回及び住民からの通報などを基に、危険個所及び補修が必要な個所を補修業務・工事発注する。	工事発注数	件		31			20	
		補修業務発注数	件		14			14	
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
	傷んだ道路等の修繕が遅くなり事故が発生した。	事故発生件数	件		0			0	

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	事業の実施に伴い、全ての利用者及び住民の生活に直接繋がるものである。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	事業の実施に伴い、全ての利用者及び住民の生活に直接繋がるものであり、ニーズも高い。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	道路橋梁管理についての瑕疵問題等も生じてくるものであり、行政主体で行うことが望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	統合や連携は事実上難しく、コストの削減も難しい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	道路橋梁管理についての瑕疵問題等も生じてくるものであり、行政主体で行うことが望ましい。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	統合や連携は事実上難しく、コストの削減は難しい。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	道路橋梁管理についての瑕疵問題等も生じてくるものであり、必ず必要な事業である。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	道路橋梁管理についての瑕疵問題等も生じてくるものであり、必ず必要な事業である。

#### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	職員により直営管理できる部分は実施しており、今後もコスト削減のため可能な範囲での作業を継続していく。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 道路・橋梁ともに安全上、管理・補修業務は必要不可欠であり、今後も早期発見・改善に努める。
		2次評価	所属長	評価 C. 事業継続
	3次評価			町長

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	路面清掃業務事業		(2) 新規・継続評価の別			継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部	
	基本目標	自然と共生したうらおいのあるまち		課	都市整備課	
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係	
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	主事		
	施策	道路の整備	(6) 関連する課			
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法					

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町在住・在勤者、その他	実施期間	～
	事業内容	全ての利用者が安全・安心かつ快適に通行し利用できるよう町道部分の路面清掃、雨水排水管等の清掃を行う。		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	会計				予算科目	7 款	2 項	1 目	
	事業費	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)	
		コスト総額	千円	8,114	6,267	7,892	7,596	7,596	
		事業費等	千円	6,930	5,056	6,696	6,400	6,400	
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
		一般財源	千円	6,930	5,056	6,696	6,400	6,400	
		人件費	千円×人役	1,184	1,211	1,196	1,196	1,196	
正規職員		千円×人役	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20		
正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	業者による路面清掃、及びシルバー人材センターに道路清掃・管渠清掃の委託			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				清掃回数(年)	件	2	2	100.0	2
	清掃延長	km	34	34	100.0	34	34	100.0	
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	路面を綺麗に保つことで、道路の美観も保たれた。また、幹線道路の排水管渠を清掃することで、雨水排水対策の効果も見られた。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				排水溝の詰まりによる冠水	件	0	0	100.0	0
	景観上の苦情	件	0	0	100.0	0	0	100.0	

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	幹線道路の雨水対策及び道路の美化等の観点からも目標に結びつく。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	道路交通量の増加に伴い、幹線道路の雨水対策及び、道路の美化等の観点からも町民のニーズに即していると考ええる。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	町道の公共性から鑑みて、行政主体が望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	統合や連携は事実上難しく、コストの削減も難しい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	主に幹線道路の清掃業務であり、その受益者は広範囲に渡るため、受益者の偏りはないと考える。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	道路は町民並びに広域に渡り、利用者が存在するため負担割合に偏りはないと考える。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	幹線道路の雨水対策及び道路の美化等の観点からも、事業の再検討は考えられない。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	幹線道路の雨水対策及び道路の美化等の観点からも、事業終了は考えられない。

### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	出水期前にはこまめに排水管の清掃を実施し、幹線道路の冠水を防ぐようにする。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	公益性・公共性の観点からも、幹線道路の清掃は継続しなければならないと考える。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
C. 事業継続			道路の飛び石、排水管のつまり、二輪車のスリップ対策、路肩の草の防止としても必要なものであり、実施していきたい。	
3次評価	町長	評価	今後の方向性	



4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 B. 一部結びつく	理由	総合計画上直接的な位置付けはないが、道路利用者の安全・安心かつ快適な道路利用に繋がる事業として他関連業務と一部結びつきがあると考える。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 B. ニーズが横ばいの事業である	理由	道路の夜間交通上の安全・安心を確保するため必要な事業であるが、故障件数等から判断するとニーズは横ばいである。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 C. 検討の余地あり	理由	街路灯は公共性があり安全上必要なものではあるが、今後は民間活力を使用したリース事業等への転換も視野に検討することが必要である。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 B. 検討の余地あり	理由	防犯灯のリース事業と連携した管理業務の効率化を検討し、コスト削減を目指す。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	町内の全街路灯が対象であり、特定の人の利益のための施設ではないため、事業の公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	町内の全街路灯が対象であり、特定の人の利益のための施設ではないため、受益者負担割合は妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	道路の安全性を確保するために必要な事業であり、再検討の余地はないと考える。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	道路の安全性を確保するために必要な事業であり、事業終了の可能性はないと考える。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	<p>主担当者</p> <p>水銀灯の製造が中止となり、今後間違いなく維持管理業務に支障が発生してくるものと考えられるため、近隣自治体等の状況を見極めながら、LED化への転換並びにリース事業の可能性を検討していく。</p>
(2) 評価・今後の方針	<p>1次評価</p> <p>担当係長</p> <p>評価 C. 事業継続</p> <p>今後の方向性 道路の安全性を維持・確保するため必要な事業であり、今後も継続する必要がある。</p>
	<p>2次評価</p> <p>所属長</p> <p>評価 C. 事業継続</p> <p>今後の方向性 LED化の検討や経費節減を念頭に維持管理していきたい。</p>
	<p>3次評価</p> <p>町長</p> <p>評価</p> <p>今後の方向性</p>

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	道路・河川愛護事務		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	主事	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法・河川法				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	7月の「河川愛護月間」、8月の「道路ふれあい月間」の期間中、自主的な道路・河川愛護活動をとおり、生活に欠かせない道路・河川への愛着を深める。 また、常に綺麗で安全に利用するため、ゴミ拾い、草刈、小枝切等の美化活動を実施する。		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	会計				予算科目	7 款	2 項	1 目	
	事業費	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)	
			コスト総額	千円	1,792	1,811	1,796	1,796	1,796
		財源内訳	事業費等	千円	608	600	600	600	600
			国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
		一般財源	千円	608	600	600	600	600	
	人件費	千円×人役	1,184	1,211	1,196	1,196	1,196		
正規職員	千円×人役	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20			
正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	各区をとおりそれぞれの自治会等で道路愛護の作業や、河川愛護の作業を実施してもらう。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
		回収したゴミの量(道路)	kg	5,000	5,340	106.8	5,000	6,510	130.2
		回収したゴミの量(河川)	kg	100	84	84.0	100	90	90.0
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	ゴミ拾い、草刈、小枝切などの作業に参加してもらうことで、町民に道路・河川への愛着を深めてもらう。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
		参加人数(道路)	人	5,000	5,390	107.8	5,000	4,857	97.1
		参加人数(河川)	人	200	220	110.0	200	134	67.0

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 B. 一部結びつく	理由	道路・河川の愛護、美化活動をとおして、美しい住みよいまちづくりに結びつく。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	自然環境の充実を求める流れに合わせて、道路・河川の愛護、美化活動の町民ニーズは増大している。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	関係する道路や、河川の状況から、行政主体で地元の協力を得る事業として、現在の形が望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	既に事業に関しては地元と連携した形が安定して継続しており、新たな統合・連携は難しく、コスト削減も考えにくい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	それぞれ居住する地域の管理作業等であり、受益者に偏りはなく公平性も保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	それぞれ居住する地域の管理作業等であり、受益者に偏りはなく負担割合も妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	道路・河川の愛護、美化活動は住みやすいまちづくりに欠かせない事業であり、継続して地元の協力を得て行っている事業のため、再検討の余地はないと考える。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	道路・河川の愛護、美化活動は住みやすいまちづくりに欠かせない事業であり、継続して地元の協力を得て行っている事業のため、事業終了の可能性はない。

#### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	<p>主担当者</p> <p>今後も事業の趣旨・目的の周知徹底を図り、地元の協力を継続して得られるよう努力する。また、今般のコロナ禍では「密」になることも想定されるため、その対策等にも十分配慮した実施手法を検討する必要がある。</p>
(2) 評価・今後の方針	<p>1次評価</p> <p>担当係長</p> <p>評価 C. 事業継続</p> <p>今後の方向性 道路・河川のより良い環境維持のために必要な事業である。</p>
	<p>2次評価</p> <p>所属長</p> <p>評価 C. 事業継続</p> <p>今後の方向性 河川愛護月間は7月、道路ふれあい月間は8月であり、猛暑日の増加、参加者の高齢化を踏まえ、地域の方々が参加しやすい時期(7月～9月)に実施するなど柔軟な対応で愛護活動を継続していきたい。</p>
	<p>3次評価</p> <p>町長</p> <p>評価</p> <p>今後の方向性</p>

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	道路除雪事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	活力に満ちたのびゆくまち		課	都市整備課
	分野別目標	生命・財産を守るまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	防災対策	(5) 主担当者区分	主査	
	施策	防災活動の支援	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	利用者が安全・安心かつ快適に通行、利用できる道路の維持管理業務で、降雪時に道路の積雪状況をみて、融雪剤散布、除雪作業の実施を業者への依頼する。 また、場合によっては、職員等による融雪剤の散布も実施。		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	会計				予算科目	7 款	2 項	1 目		
	事業費	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)		
			コスト総額	千円	399	121	120	192	192	
		財源内訳	事業費等		千円	281	0	0	72	72
			国支出金	千円						
			県支出金	千円						
			地方債	千円						
			その他	千円						
		一般財源	千円	281	0	0	72	72		
	人件費		千円×人役	118	121	120	120	120		
正規職員	千円×人役	5,920 × 0.02	6,053 × 0.02	5,981 × 0.02	5,981 × 0.02	5,981 × 0.02				
正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×				
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×				

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	降雪時の危険箇所を適正に把握するための巡回等の実施。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
		降雪時の巡回	回		0		0		
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	降雪時の効果的な巡回実施により、素早く事案に対応することで、危険箇所の早期発見・改善			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
		融雪剤の散布	回		0		0		
除雪作業	回		0		0				

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 B. 一部結びつく	理由	積雪によるスリップ事故等を未然に防ぐために必要な事業であり、住民の安全・安心に寄与し、生命財産を守るまちづくりに結びつく。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 C. ニーズが減少している事業である	理由	近年の地球温暖化により降雪回数の減少が顕著であるため、全体のニーズとしては減少傾向にある事業である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 C. 検討の余地あり	理由	降雪時の融雪剤散布等に関しては、必要になったときのみ実施出来ればよいと、民間活力を利用した業務委託等も可能である、
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 B. 検討の余地あり	理由	民間活力利用も考えると、コスト削減は可能と思われる。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	受益者に関しては、町民並びに道路を利用するすべての人が受益者であるため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	受益者に関しては、町民並びに道路を利用するすべての人が受益者であるため、負担割合は妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある	理由	事業実施主体の観点は今後改善の余地があると考ええる。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	降雪の可能性がなくなる限り、事業終了の可能性はない。

#### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	<p>主担当者</p> <p>万が一の降雪に備え、日頃から準備をしておくことは必要であり、無償ではあるが、本事業に協力してもらえらる建設業組合の事業者との連携は密にしておく必要がある。</p>
(2) 評価・今後の方針	<p>1次評価</p> <p>担当係長</p> <p>評価 D. 事業縮小・再構築の検討</p> <p>今後の方向性 温暖化による降雪回数の減少も視野に、事業縮小の可能性も検討する必要があるが、現状で最小減の経費投入状況になっているため現状維持で推移も止む無しか。</p>
	<p>2次評価</p> <p>所属長</p> <p>評価 C. 事業継続</p> <p>今後の方向性 交通の安全確保のため、一定の積雪があった場合、幹線道路などを中心に実施していきたい。</p>
	<p>3次評価</p> <p>町長</p> <p>評価</p> <p>今後の方向性</p>

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	野渡・橋戸樋管管理事務事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	活力に満ちたのびゆくまち		課	都市整備課
	分野別目標	生命・財産を守るまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	防災対策	(5) 主担当者区分	主査	
	施策	防災活動の支援	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	河川法				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	排水区域内の安全を確保するため、野渡樋管の適正な維持管理を行うとともに、古河市管轄の橋戸樋管の管理についても協力体制を維持する。 ①渡良瀬川増水時の樋管操作委託(水位の監視業務・水門開閉業務) ②樋管排水機場の保守点検業務		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	会計				予算科目	7 款	2 項	3 目		
	事業費	区分		単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	5,406	1,910	1,057	3,143	3,143	
		事業費等		千円	4,814	1,305	459	2,545	2,545	
		財源内訳	国支出金	千円						
			県支出金	千円						
			地方債	千円						
			その他	千円						
			一般財源	千円	4,814	1,305	459	2,545	2,545	
	人件費		千円×人役	592	605	598	598	598		
	正規職員	千円×人役	5,920 × 0.10	6,053 × 0.10	5,981 × 0.10	5,981 × 0.10	5,981 × 0.10			
	正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×			
	その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	異常気象時における安全を確保するため、ゲリラ豪雨や台風等の降雨時は適宜巡回を実施する。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
		保守点検	回	9	9	100.0	9	9	100.0
		水門操作	回	0	0	0.0	0	0	0.0
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	定期的な巡回、保守により樋管に関する機器の安定稼働。 増水時の素早い対応による地域住民の安全確保			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
		保守点検	回	9	9	100.0	9	9	100.0
		水門操作	回	0	0	0.0	0	0	0.0

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	増水時には冠水を防ぐために必要な事業であり、住民の安全・安心に寄与し、生命財産を守るまちづくりに結びつく。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	近年の異常気象によるゲリラ豪雨の頻発や、台風の大型化により大規模な降雨災害が頻発しているため、住民のニーズが増大している事業である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	地域の防災に必要な事業であり、住民の生命財産を守るためにも地域と連携しながら行政主体の運用が望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	地域の防災に関するものであり、すでに地元協力者の方と連携して事業を行っているため、現状維持が望ましい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	地域全体の防災に関わるものであるため、適正に公平性が保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	地域全体の防災に関わるものであるため、適正に公平性が保たれており、受益者負担割合も妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	地域全体の防災に関わるものであるため、適正に管理していくことが望ましい。 また既に地元との協力体制も構築されているため、再検討の余地はないと考える。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	近年の異常気象によるゲリラ豪雨の頻発や、台風の大型化により大規模な降雨災害が頻発しているため、住民のニーズが増大している事業であるとともに、事業終了の可能性はないと考える。

#### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	災害時の即時対応に備え、日頃から受託事業者並びに協力住民との密接な連絡調整を図る。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	近年の異常気象による降雨量増大も顕著なため、事業継続は必須である。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	町民の生命・財産を守る施設であるため、定期的な管理を継続していきたい。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	公園占用・行為許可事務		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうらおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	都市計画の推進	(5) 主担当者区分	主査	
	施策	都市的環境の充実	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	野木町都市公園条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	公園占用物等の許可申請を受付し、内容を精査、許可する。 ① 占用許可・協議申請書等の受理 ② 専用物件・期間等、内容審査 ③ 占用料納入書の発布等 上記事務の適正処理を行う。また、行政財産使用許可についても同様に処理する。 公園行為許可については、内容を精査し許可する。		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	事業費	会計		区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)		
		予算科目	款								項	目
		コスト総額	千円								296	303
		事業費等	千円	0	0	0	0	0	0	0		
	財源内訳	国支出金	千円									
		県支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他	千円									
		一般財源	千円	0	0	0	0	0	0			
		人件費	千円×人役	296	303	299	299	299	299			
		正規職員	千円×人役	5,920 × 0.05	6,053 × 0.05	5,981 × 0.05	5,981 × 0.05	5,981 × 0.05	5,981 × 0.05			
		正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×	300 ×			
		その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	公園占用・行為許可の申請書受付、及び許可書の発行			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				許可件数	件		31		10
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	町内公園の健全な利用、適切な管理が図られている。また、使用料の収入による公園管理費の財源確保に繋がっている。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				収入金額	円	472,000	395,446	83.8	344,000

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 B. 一部結びつく	理由	総合計画上、直接的に関係する位置付けはないが、公園でのレクリエーション等、行われる事業を適切に管理することで、都市的景観の充実が図られ、一部結びつくと考える。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 B. ニーズが横ばいの事業である	理由	公園でのバーベキュー等の実施や、公園を活用したイベント等で一部需要があるが、現時点でのニーズは横ばいである。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 A. 実施済み・できない	理由	公園という公共性の高い場所の許可事務になるので、行政主体でないと不公平になる。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	統合や連携は難しく、コスト削減は図りづらい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	公園の利用者が対象となるので、公平性は高い。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公園は町民全体の物であり、妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	基本的には行政主体で行う事務であり、一定数のニーズがあるため、引続き継続すべき事務である。そのため、再検討の余地はないと考える。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	町が管理する公園が存続する限り、事業終了の可能性はない。

#### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	公園内で無許可のバーベキュー等実施しているケースが見受けられるため、制度の周知徹底を図り、適正利用を求めていく。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	公園利用者の利便性、公平性を担保するためにも本事業は継続実施していく。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
C. 事業継続			法定事務のため必要であるが、占用、行為の許可を行うにあたっては、他の利用や周辺の状況等を考慮したうえで慎重に事務を行っていきたい。	
3次評価	町長	評価	今後の方向性	

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	ドックラン管理事務		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	都市計画の推進	(5) 主担当者区分	主査	
	施策	都市的環境の充実	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	都市公園条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	利用者が安全・安心、かつ快適に過ごせるようにドックラン施設の適正な維持管理を行う。		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	事業費	会計		予算科目		7 款	4 項	4 目	
		区分		単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)
		コスト総額		千円	492	505	501	572	572
事業費等		千円	374	384	381	452	452		
財源内訳	国支出金	千円							
	県支出金	千円							
	地方債	千円							
	その他	千円							
	一般財源	千円	374	384	381	452	452		
人件費		千円×人役	118	121	120	120	120		
正規職員		千円×人役	5,920 × 0.02	6,053 × 0.02	5,981 × 0.02	5,981 × 0.02	5,981 × 0.02		
正規職員時間外勤務		千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×		
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	ドックランを適切に維持管理するため、ボランティアの方の協力を得ながら、利用者の方に適正な利用方法の指導を行っていただく。 シルバー人材センターに修1回の清掃を委託する。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
		開場日数	日	300	314	104.7	300	286	95.3
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	ドックランを適正に維持管理できた。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
		清掃回数(週)	回	1	1	100.0	1	1	100.0

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	ドックランを適正に管理することにより、利用者にとって快適な場所を提供することが可能となり、結果的に都市的環境の充実に図ることができ、町の総合計画の目標に結びつく。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	犬をペットとして飼育する人が増加し、結果的にドックランの需要も増大傾向にあり、ニーズに即した事業といえる。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 A. 実施済み・できない	理由	既にボランティアと協力し、無償にて管理事業に協力いただいている。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状で安定したボランティア活動を継続していただいております、これ以上の連携等は難しい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 B. 概ね保たれている	理由	利用者は愛犬家等、犬を介した方のみになるため受益者は多少偏りがあると思われるが、近隣にドックランを有した公園がないため、広範囲からの利用者が増大しており、公平性は保たれていると考えられる。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	利用にあたり、料金の徴収は行っていないが、ボランティア参加者もドックラン利用者であるため、受益者の負担割合はおおむね妥当と考える。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	ドックランに対するニーズの高まりと、現状の運用形態で大きな問題はないと考えられるため、事業の再検討の余地はないと思う。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	ドックランに対するニーズの高まりを考慮すると、現時点で事業終了の可能性はない。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当 担当者	利用料金を徴収しない以上、過度の経費投入は避けたいが、ドックランボランティアの方々と連携を取りながら、運営し易い管理方法を維持していくことに注意する。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当 係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	ドックランの維持管理のために必要な事業である。
	2次評価	所属 長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	清掃等を定期的に行うなど適正管理していきたい。
	3次評価	町 長	評価	今後の方向性



4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 C. あまり結びつかない	理由	総合計画上、位置付けがない事業である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 B. ニーズが横ばいの事業である	理由	駅利用者が噴水を見ながら休憩でき、夜間は照明が点灯するので防犯の役割を担っているため、ニーズに即している。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 A. 実施済み・できない	理由	噴水設備の維持管理・清掃は業者に委託している。また、一時的な清掃対応等はシルバー人材センターの委託事業の中で対応している。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	統合や連携は難しく、コストの削減も難しい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	噴水を見たり、駅前広場を利用する人は駅の利用者であるが、町の玄関口であり町内外の多くの人が利用するため、事業の受益者は公平である。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	駅の利用者が受益者であるため、妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	駅利用者が噴水を見ながら休憩でき、夜間は照明が点灯するため防犯の役割を担っており、噴水がある以上は管理する必要が生じ、再検討の余地はないと考える。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	駅前広場と併せて、噴水が存続する以上、管理業務を終了する可能性はない。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	野木町の玄関口でもある駅前広場と噴水については、都市的景観の代表でもあるため、適正な管理を実施し、噴水も安定的に稼働させていきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	野木町の玄関口である駅前広場と噴水を適切に維持管理して、都市的景観を維持していきたい。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
C. 事業継続			駅前広場の中心施設で、水と触れ合える憩いの場として親しまれていることから、とちぎ国体に向けて噴水の再開を検討していきたい。	
3次評価	町長	評価	今後の方向性	

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	町営住宅維持管理事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	生活環境の充実	(5) 主担当者区分	主査	
	施策	生活環境の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	公営住宅法・町営住宅設置及び管理条例・施工規則				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	町営住宅利用者	実施期間	～
	事業内容	入居者が安全・安心な生活が送れるように施設の維持管理を行う。		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	事業費	会 計		予 算 科 目		2 款	8 項	2 目	
		区 分		単 位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)
		コスト総額		千円	1,437	1,238	1,340	1,526	1,526
事業費等		千円	253	27	144	330	330		
財源内訳	国支出金	千円							
	県支出金	千円							
	地方債	千円							
	その他	千円							
	一般財源	千円	253	27	144	330	330		
人件費		千円×人役	1,184	1,211	1,196	1,196	1,196		
正規職員		千円×人役	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20		
正規職員時間外勤務		千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×		
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
	入居者の生活安定、満足度の向上を目指して住環境の維持保全に努める。	入居戸数	戸	6	5	83.3	6	5	83.3
		入居者数	人	10	10	100.0	10	7	70.0
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
	町営住宅の築年数は30年以上となり、設備等が老朽化してきており、その都度補修管理を実施し、入居者の安心・安全な生活を支える。								

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 C. あまり結びつかない	理由	総合計画に結びつく事業ではない。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 B. ニーズが横ばいの事業である	理由	町が所有する建築物であるため、入居者からは適正な維持管理が求められる。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	町営住宅であるため、行政が直接管理することが望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	統合や連携は難しく、コスト削減も難しい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 C. 偏っている	理由	現状の利用形態では、入居者の偏りが見られるため、偏っている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	所得に応じた家賃設定であり、入居者も限られているため、妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	町が所有する建築物であるため、入居者からは適正な維持管理が求められ、再検討の余地はない。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	町が所有する建築物であるため、入居者からは適正な維持管理が求められ、事業終了の可能性はない。

#### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	建物の老朽化が進み、今後も事業を継続する場合はいずれ全面的な改修又は建て替えが必要になってくると思われる。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	施設の維持管理に必要な事務であり、今後も継続する必要がある。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	長寿命化計画に基づき適切に屋根、外壁等について周旋し維持管理していきたい。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性